



第1回 実験美学セミナー  
(第127回バイオサイコシンポジウム共催)

描くことの進化と発達の起源を探る  
～ チンパンジーとヒトの幼児の描画行動から～

日時: 2010年12月6日(月) 17:30 – 19:00

場所: 三田キャンパス東館4階セミナー室

Date and Time: Friday, 6th December, 2010; 17:30 – 19:00  
Venue: G-SEC Seminar Room, 4th floor, East Research Building,  
Mita Campus, Keio University

講演者: 齋藤亜矢<sup>博士</sup>

(京都大学野生動物研究センター / 東京藝術大学)

絵を描くことの認知的な基盤とはなにか。描画行動の進化・発達の起源をテーマに、チンパンジーとヒト幼児を対象とした比較認知科学的な研究をおこなっている。絵筆を器用に操作しながら具体的な物の形(表象)を描かないチンパンジーと、なぐりがきから表象描画に移行する時期のヒトの相違はどこにあるのか。刺激図形を用いた課題からはイメージの想起や補完との関連が示唆された。「描く」という行為から垣間見える心の進化や発達についてお話したい。

【齋藤亜矢博士略歴】

京都大学理学部を卒業後、京都大学大学院医学研究科修士課程、東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程を修了。博士(美術)。その後、日本学術振興会特別研究員PD(東京藝術大学)、東京藝術大学大学院映像研究科藤幡研究室研究員を経て、現在、京都大学野生動物研究センター研究員。主に、チンパンジーとヒトの幼児の描画行動の分析から、本講演にあるような描くことの進化的、発達の起源について比較認知科学的な基盤を明らかにしようとしている。

会費無料、事前登録は不要、言語日本語

企画: 慶應義塾大学グローバルCOEプログラム「論理と感性の先端的教育研究拠点」脳と進化班 川畑秀明

<http://www.carls.keio.ac.jp/>

E-Mail : [keiocarls@info.keio.ac.jp](mailto:keiocarls@info.keio.ac.jp)